

令和4年度予算案等の概要について

市長

おはようございます。少し長くなりますがお許しをいただきたいと思います。

本日は、案件を3つご報告いたします。

1点目は2030年の横須賀の未来の姿を描いた「YOKOSUKA ビジョン2030」について、
2点目は今後4年間の政策の方向性と重点的な取り組みを示した「横須賀再興プラン」
について、3点目は令和4年度の当初予算案の概要についてです。

資料の説明に入る前に、まずは、再興プランと新年度初予算に込めた私の思いを述べさせていただきます。

コロナとの戦いは今なお続いていて、横須賀市においても、爆発的に感染者が増えている状況です。最前線で奮闘されている医療・保健・福祉関係者の方々をはじめ、エッセンシャルワーカーの皆様の連日連夜にわたるご尽力に改めてこの場をお借りして感謝を申し上げたいと思います。

横須賀においては、感染症対策として、3回目のワクチン接種を、本日より、全年齢で2回目接種後6カ月で接種可能とするなど、できる限りの対策を講じてまいります。今後も最大限の感染拡大防止対策を続けながら、また、関係者の方々の皆様のお力添えをいただきながら、この難局を乗り越え、未来に向けて着実に市政を前に進めていきたいと考えます。

年頭の記者会見でも申し上げましたが、私は今年という言葉に「新流」を選びました。新しい流れと書いて「新流」です。

コロナ禍にあっても様々な種をまき、それが芽吹き、花が咲きだしていると思っています。

新年度ではさらに、今までにない新しい流れを生み出し、そして横須賀への注目を高め、投資を呼び込み多くの人に横須賀を訪れていただくことで、地域経済の好循環を作り出したいと考えています。そして、目指すべき「誰も一人にさせないまち」の実現に向けて新たなステージの取り組みを進めていきたい、そのような思いを込めて編成をしたところで

す。

それでは次に、「YOKOSUKA ビジョン2030」についてご説明します。

1ページをお開きください。このビジョンは、市が目指す未来像と、政策の方向性を示したものです。2030年を見据えた上で、計画期間は8年間としています。

デザインについては、全編にわたって横須賀の未来をイメージしたイラスト等を多く用いて、市民の皆様に手に取ってもらう、読んでもらうことも意識した作りをしています。

2ページをお開きください。ビジョンでは、希望ある豊かな横須賀を目指し、未来像として、「変化を力に進むまち。横須賀」を掲げました。

少子高齢化、テクノロジーの進歩、コロナウイルスの流行など、これまでにない、様々な変化が生じています。その変化を乗り越え、その変化をチャンスとして追い風にし、未来に進んでいくまちであるという思いを示しています。

策定にあたっては多くの市民の方々からご意見をいただきました。また、学識経験者や関係団体の方々からなる総合計画審議会からも様々な視点からの意見をいただきました。

そして、市議会では特別委員会を設けていただき約2年間にわたって本当にたくさんの議論を行っていただきました。

コロナ禍という厳しい状況にありながらも市民、議会、行政が一体となってこの横須賀

の将来の指針となるビジョンの策定を行うことができたことを深く感謝を申し上げたいと思います。

5 ページをお開きください。次に「横須賀再興プラン」についてです。

この新たなプランは、ただ今、ご説明申し上げた「YOKOKUKA ビジョン 2030」の未来像の実現に向け次の4年間の政策の方向性と主な事業を示したものです。

現行の再興プランに続く第2期のプランとなります。

まずは、このプランが目指すまちの姿です。

これまでも横須賀に関わるすべての人が未来への希望を持ち、お互いを支え合う「誰も一人にさせないまち」の実現を目指し様々な取り組みを行ってきたところです。

コロナ禍の厳しい状況ではありながらも、民間事業者との連携や投資も進み、北九州を結ぶ高速フェリーの就航や、ルートミュージアムの本格始動など、横須賀のさらなる発展に向け、可能性にあふれた新しい流れが生まれてきたと思います。

先ほど申し上げましたが、次のプランでは、この新しい流れを市民に実感していただくとともに、これまでの取り組みを進化させ、地域経済への好循環を作り出し、さらなる福祉の充実を図っていきます。

そして「誰も一人にさせないまち」の実現に向けて新たなステージの取り組みを進めてまいります。

6 ページをお開きください。次に「目指すまちづくりの3つの方向性」です。

これまでも「海洋都市」、「音楽・スポーツ・エンターテインメント都市」、「個性ある地域コミュニティのある都市」の3つのグランドデザインのもと、取り組みを進めてまいりました。

第2期プランも同様に、ほかにはない、横須賀が持つ魅力にさらに磨きをかけ、取り組んでまいります。

8 ページをお開きください。最重点施策です。

「福祉・コミュニティ」、「子育て・教育」、「経済・産業」、「にぎわい」に新たに「環境」を加えた5分野について重点的に取り組みます。

また、取り組み全体の基盤とすべき内容として「行政運営の方向性」を掲げました。

職員の意欲や能力を向上させ、組織が最大の力を発揮させていくための「人事・給与制度改革」。また、これまで以上に効率的で、質の高い市民サービスを提供するための、「DX」と「民間企業との連携」を併せて進めてまいります。

10 ページをお開きください。最後に「市政運営の基本姿勢」です。

今回のプランでは「行財政改革」と「財政運営」の方針を併せて示しました。限られた経営資源を有効に活用できるよう、実施計画と併せて推し進めてまいります。

次に「令和4年度予算の概要」について説明します。

今申し上げた「再興プラン」を具体化する最初の予算となります。資料に沿って「再興プラン」の柱ごとに主な事業に絞ってご説明をします。

15 ページをお開きください。1つ目の柱「地域で支え合う福祉のまちの再興」です。

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、まずは相談体制の充実を図ります。

行政センターの相談窓口を新たに衣笠と北下浦の行政センターに開設します。

今後、すべてのセンターに広げていく予定です。

次に②③は、今まで、行政の支援が行き届いていなかった方への支援として、生活保護世帯の高校生に対する学習支援や、虐待被害などで避難している大学生などに対する支援を新たに始めます。

18 ページをお開きください。新しいつながりによるコミュニティの活性化では、①に記載のとおり、スクールコミュニティの取り組み校を増やしてまいります。

19 ページをご覧ください。②に記載のとおり、アーティスト村に加え逸見地区では上

下水道局の旧待機宿舎を活用してクリエイターの移住を進めます。安全・安心のまちづくりでは市議会での条例制定を踏まえ、①に記載のとおり、犯罪被害者等への支援に取り組んでまいります。

20 ページをお開きください。④に記載のとおり、地域防災の要である消防団員の確保のために報酬の増額や連絡を支援するアプリの導入も行っています。

21 ページをご覧ください。⑥防災DXでは、速やかな災害対応を可能にするため、定点カメラを設置するほか、ウェアラブルカメラや高機能ドローンを導入し、災害時の情報収集能力をさらに高めています。

また、浸水被害が発生しているコースカ前や上町地区での対策に向けた準備を進めています。

22 ページをお開きください。

2つ目の柱「子育て・教育環境の再興」です。

まずは、経済的な負担の軽減として、①多子世帯の保育料無償化の拡大では、2人以上のお子さんがある世帯の0歳から2歳の保育料に対して、上のお子さんの年齢に関係なく、市独自の助成を始めます。

②放課後児童クラブについては、国の補助を最大限活用することで市からお渡しする補助金を増額し、平均利用料の引き下げを目指しています。

23 ページをご覧ください。

環境づくりとしては、②から次のページの③の記載のとおり、保育定員の拡充とともに、一時預かりサービスも定員余裕分を活用し待機児童の解消を目指しています。

25 ページをお開きください。

次に小学生の放課後の居場所づくりとして、特にすべての児童を対象とした「放課後子ども教室」を26校に増やします。

令和5年度末にはすべての小学校に整備できるよう進めています。

27 ページをお開きください。

妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援としては、①に記載のとおり、役所屋追浜店の跡地を活用し、「愛らんど追浜」を拡張します。

④に記載のとおり、弱視などの早期発見に有効な検査機器を3歳児健診に導入し早期の治療につなげていきたいと思えます。

28 ページをお開きください。

学力向上については、国に先駆けた35人以下の学級の導入や、ICT支援員の配置を行い、分かりやすい授業を実施しています。

29 ページをご覧ください。

④日本語指導が必要な児童生徒への支援として、諏訪幼稚園跡地に支援教育ステーションを整備します。

31 ページをお開きください。

①図書館については図書館のすべての本にICタグをつけ、自動で貸し出しや返却ができる仕組みを構築し、利用者の利便性を向上させてまいります。

②美術館については教育委員会から市長部局へ移管し、大河ドラマと関連した運慶作の仏像展や、他都市でも例のない美術館での能の上演など新たなチャレンジをしていきたいと思えます。

32 ページをお開きください。

3つ目の柱「経済・産業の再興」です。

①②に記載のとおり、新港地区のさらなる整備活用に向けた検討や港を有効活用してもらうために、利用者のニーズに合った施設に改良をするとともに、ポートセールスも行っています。

③民間連携の推進では、民間事業者への情報提供や情報共有などを行うため、専任の部署を立ち上げ、取り組みをより一層強めてまいります。

36 ページをお開きください。

①中心市街地などの再開発促進では、各地区の再開発が着実に進むよう支援を行います。追浜地区に関しては、駅前の事業を国と調整しながら進め、新たな図書館の整備やまち全体の活性化に向けた検討を進めてまいります。

38 ページをお開きください。

4つ目の柱「歴史や文化、スポーツを生かしたにぎわいの再興」です。

①ティボディエ邸と周辺施設の連携では今後も多くのお客さまに来ていただき、横須賀の魅力を伝え、ここからサテライト施設へ周遊していただけるよう、展示の充実や新たな仕掛けづくりにも力を入れていきたいと考えています。

②浦賀地区の活性化です。ドック周辺を舞台にしたイベントを開催するなど浦賀ドックの知名度を上げていきたいと思えます。またエリアの活性化のために本格整備に向けた検討を進めてまいります。

41 ページをお開きください。

音楽やダンスなどによるにぎわいの創出としては、①から次のページの③に記載のとおり、音楽によるにぎわいづくりや猿島を舞台としたアートイベント、ストリートダンス大会の誘致などの取り組みを進めてまいります。

43 ページをお開きください。

スポーツによるにぎわいづくりでは①に記載のとおり久里浜地区においては街なかにマリノスのチームカラーであるトリコロールをほどこすなど、企業版ふるさと納税を積極的に活用しスポーツがまちの活力となる取り組みを進めていきます。

46 ページをお開きください。

5つ目の柱「未来につなぐ環境の保全・創出」です。

①に記載のとおり、市役所も事業所の1つとしてCO2の削減に積極的に取り組んでまいります。市立学校など10カ所に新たな太陽光パネルの設置を行い今後同様のペースで設置を進めます。公用車についても新年度には5台EVに更新する予定です。

②から次のページの③に記載のとおり、市域全体の脱炭素の取り組みへの支援も強化してまいります。新たにEVカーシェアリングとして、平日は公用車、休日はカーシェアリング用となるEV2台を導入します。さらには、ブルーカーボン事業への取り組みも具体化してまいります。

49 ページをお開きください。

その他の重点施策としては、DXの推進に様々な仕掛けを行っていきますが、特に次のページの③電子契約については、県内で初めて本格的に導入します。

以上、具体的な事業の説明を申し上げましたが、これらの事業をあわせた一般会計の予算規模は14ページに記載のとおり、1,574億5千万円です。前年度と比較して減となっていますがこれはワクチンの接種経費の減少などによるものです。これらの取り組みが様々な形で実を結び最終的には将来令和4年が横須賀発展の「第2の開国元年」だったと呼ばれるような年にしたいと思っております。

以上です。

<質疑応答>

記者

多くの新規予算がありますが、市長肝いりの施策というものはありますか。

市長

全部です。納得した予算ができたと思っています。

行政は、各分野での分析はできますが、全体像は見えにくいものだと思います。

今回、文化・スポーツ、海洋都市、それぞれ違う個性の地域コミュニティがどういったイメージなのかということを中心に議論し、形として見せることができたと思っています。

あらゆる政策は、これまで私が考えていたものをある意味で網羅しているため、すべてが重要な施策であると理解しています。

記者

形が見えたというのは、例えばどのような予算に反映されていますか。

市長

福祉や子育て支援です。

記者

新型コロナに関係した予算があまり計上されていないように思いますが、今年度である程度のことは対応できたということでしょうか。

財務部長

コロナ対策の予算も当然盛り込んでおります。検査の体制それから接種の費用などもございしますが、令和3年度の補正予算などで計上している部分もあり、今回の資料にはその部分についての記載はありません。

記者

すでに今年度の補正予算で計上しているということでしょうか。

財務部長

そのとおりです。

記者

今回の予算編成をみると、福祉の充実を目指しているように感じました。

改めて福祉を充実させていくという意図や思いというものをお聞かせください。

市長

このコロナ禍で改めて、経済的な豊かさより人間的な豊かさというものが見つめられた社会になってきたと思います。そのため人や個人にフォーカスをした施策・政策を打ちたいと思っていました。このコロナ禍でそういう流れができたという意味では、福祉社会に持っていく機が熟したと考えています。

記者

第1期の再興プランでは、最重点施策の順番が、経済・産業、福祉、子育て、観光の順番だったと思います。今回は、福祉、子育てが前段となっている理由を教えてください。

市長

4年前に私が当選した時、経済的にもものすごく疲弊し、横須賀の税収もかなり落ち込ん

でおり、経済を再生しなくてはならない状況に追い込まれていました。

その中で、経済や産業をどのように発展させていくのかという道筋を示さなくてはならないと思い、第1期では「経済」をひとつ目にしました。

今後、ある程度軌道に乗せて、先が見えてきた時の横須賀の姿はどういうものなのかと考えると、「福祉社会」が最重点であるとお示しする時期にきていると感じたためです。

記者

2期目の再興プランから「環境」が新たに加わりましたが、その狙いをお聞かせください。

市長

世界中でSDGsに取り組んでいる中、環境問題についても最重点に取り組まなければならない課題であり、それを横須賀から発信をしていきたいという思いで環境政策を加えました。

記者

「横須賀ビジョン2030」や「横須賀再興プラン」などで、新たな政策が出てきましたが、現時点での横須賀の課題はどこにあるとお考えですか。

市長

経済と税収だと思います。税収が増えなければ、あるいは経済を活性化しなければ福祉に対して投資する財源はできないため、経済産業の復興・復活、それから経済の発展が最優先だと個人的には思っています。もちろんそれは福祉社会につなげていくためのものだと考えています。

記者

YOKOSUKA ビジョンなどの今後の財政状況を見ると、高齢化もあり、税収が伸び悩むという予想もあります。また、経常収支比率も目標が100パーセント程度ということで、挑戦的な政策を実施していくための財源はどのようにして確保するお考えですか。

市長

ひとつは内部管理経費の徹底した削減です。

行政経費を削減するためには、人件費や内部管理経費を第1番に削減しなければいけないと思います。

また、やはり「民」との連携が重要であると思っています。

記者

経済の発展がないと福祉の充実も難しいということですが、民官の連携、経済発展について期待されているものを教えてください。

市長

新日本海フェリーに大きな期待を寄せています。

また、令和7年には横浜環状南線ができます。おそらく、そのルートから横須賀に人や物が流れ込み、横須賀発展の大きな礎を築いていくのではないかと考えています。

ほかにも、企業版ふるさと納税により、横須賀に投資をしたいという企業が増えてきています。これらは最大のチャンスであり、ぜひ積極的に連携をしていきたいと思っています。

記者

新しいふ頭を整備するための調査費用として 1,250 万円が計上されています。また、向こう 4 年間で 45 億円余りを投入すると記載がありますが、完成年度はいつぐらいを見込んでいるのでしょうか。また、総額の事業費が 45 億円限りなのか、4 年過ぎた際には、さらに経費がかかるのかということ具体的に教えてください。

財務課長

確認し、後ほどご回答致します。

記者

2025 年度に整備工事という記載がありますが、これは工事に着手する目標年度ということよろしいでしょうか。

市長

はい。

記者

人事給与制度改革についてですが、職責と処遇が一致する給与体系を構築するとありますが、具体的なイメージを教えてください。

経営企画部長

この給与制度改革につきましては、職員のモチベーションを上げていきたいという思いがございます。これまで年功序列型給与体系になっておりましたが、評価制度を入れながら、職責と給料が一致するよう、給料体系自身を変えていきたいと思っています。

まず、来年度からは、部長の役職の手当について、部長の職責に応じて変えていきたいと思っております。

記者

イメージとしては、能力主義ということでしょうか。

市長

基本的には能力主義にしたいと思っています。

そのため、まずは、部長に対し職責に応じた給与ランクをつけていきます。この、職責や能力に応じてランクをつけることで、競争が働くようにしていくということです。

記者

つまりは、民間のような成果主義ということでしょうか。

市長

差をつけることにより、それぞれが切磋琢磨していければと思っています。

また、自分がどのような評価をされているのかを理解してもらう必要もあると考え、人事改革を始めていきます。

記者

これはあくまで職員に対してということですか。会計年度任用職員も含むのでしょうか。

経営企画部長

将来的には全職員ということを考えておりますが、まずは、部長級や課長級などの管理職で実施し、検証をしながら、広げていきたいと考えております。

記者

給与制度改革とは直接の関係はありませんが、市長の2期目の退職金について、結論は出たのでしょうか。

市長

まだ決めていませんが、自分が納得したらいただこうと思っています。ただ、自分が納得しなかったらもうつもりはありません。

記者

それは副市長も同じ扱いということでしょうか。

市長

私個人の問題であり、副市長は違うと思います。

記者

美術館の集客力を向上させるということが盛り込まれていますが、かつては人気ロックバンドの関連展示会が行われた際、アートの線引きについてや、集客施設としての美術館の在り方が議論されたこともあったかと思います。今後、集客重視の拠点改革という中で、どのように美術館やアートというものを発信していくのでしょうか。

市長

やはりクラシカルなものや古典的なものを中心になってくるであろうと思っています。ただ、どのようなものがアートなのかという線引きは難しく、時代の変化に合わせて柔軟に変えていきたいと思っています。

記者

美術館を市長部局に移管する理由を教えてください。

市長

観光やスポーツなどと同様、美術館も集客の1つであり、テーマにもなると思い、市長部局でやりたいとお願いしました。

記者

美術館で何を行うかを政治家（行政）が決定することは、どうなのかと思うのですが、そのことについて何かお考えはありますか。

市長

教育委員会であっても行政の一部であると思っていますので、特に考えていません。

記者

集客力の向上ということですが、数値目標は掲げていますか。

経営企画部長

目標として美術館というよりは全体の観光客数ということで数値目標を掲げております。

記者

美術館に何人ではなく、全体として横須賀市に何人来るのかということでしょうか。

経営企画部長

はい。横須賀市に来る観光客数を伸ばしていきたいと考えます。

記者

現在、浦賀ドックを目的に観光客が見に来るという感じには、なっていないと思います。

やはり、横須賀観光の目玉になるような施設を市が譲り受けたということで、イベントだけではなく、通常の観光客が見に来たいと思うようなものはお考えでしょうか。

市長

これからしっかりと考えていきたいと思えます。

記者

周辺にも同じような年代のドックがあると思いますが、そこのタイアップなどはお考えでしょうか。

市長

いまのところは考えておりません。

記者

福祉や子育てについてですが、国の枠組みから外れたところの支援をすることにより、横須賀市にどのような効果があるとお考えでしょうか。

市長

まず、人にやさしいまち、誰もひとりにさせないまちとはどういうことなのかと考えると、横須賀で生きていく人たちを幸せにしたいと思っています。

また、制度やシステムのはざままで手を差し伸べることができていない人たちをどのように救うのかということが行政の役割だと思っています。

そこに目を向け、泣く人ができる限り少なくなるような仕組みを作っていきたいと思っています。

そういう社会こそが、誰もひとりにさせないまちであると自分の中で理解しておりますので、その方向に進めていきたいと思っています。

記者

「人にやさしいまち」というメッセージが伝わることで、たとえば横須賀から外へ出て行く人が減少することや、一方で、新たに横須賀を選んでいただくなどの効果もあるとお考えですか。

市長

結果として、そのようになればいいと思っています。

記者

大学生の生活保護の問題についてですが、先日、厚労省へ市長が要望に行かれたかと思いますが、今後の見通しについて教えてください。

市長

文科省も連携をして取り組むとおっしゃっていただいているので、これからどのように連携し、訴えていけばいいか考えていきたいと思えます。

記者

保育料無償化の拡充についてですが、経済的な負担の軽減もありますが、こどもの数や転入者を増やしたいという狙いもあるのでしょうか。

市長

まず、今いる方たちの負担を軽減させたいという思いがあります。その結果として、転入者などが増えたらいいと思っています。

記者

再興プランの5つの柱についてですが、予算額の合計は1,500億円とありました。向こう4年間の財政投資から見たときに1,500億円という金額は、無理のない範囲での見積もりなのか、上積みして見積もったのかを教えてください。

市長

上積みではなく、かなり抑え込んだと思っています。

記者

向こう4年間で経済状況が好転し、好循環が生まれ、かつ税収入が増加し財源が生まれたときには、さらに拡充していくということも考えているのでしょうか。

市長

そうなるかと思えます。

記者

全国の自治体で定住・移住に関する競争が活発化しているように思われますが、今回の予算の中で、子育て環境の充実やテレワークの促進などもあります。定住・移住に関する発信や政策的についてどのようにお考えでしょうか。

市長

自治体間の競争というのは意味がないと思っています。まず、そこに住む人たちを幸せにすることが第一であると思っています。その中で、この街がいいと思っただけならば、定住・移住につながっていくと思っています。

財務課長

先程、ご質問のあった件について回答いたします。

新港ふ頭の完成年度の見込みについてですが、今年度から測量など行いましてその4年間で内容が変わっていくような運びになっています。それから内容の精査となりますので、

最終の完成については、その内容次第で変わっていきます。

記者

今わかっていることは、事業着手の 2025 年度までの経費が 45 億円ということでしょうか。

財務課長

はい。現時点の想定合計額は 45 億円ということです。

経営企画部長

先程、ご質問のあった件について補足いたします。

観光客数ということで全体の観光客数を掲げておりますが、冊子本編に目標値ということで、美術館の目標値は 83 ページ、全体の目標につきましては 99 ページに記載しております。

(終了)